

社会科指導案

日 時 平成29年5月26日（金）4校時

児 童 6年生

授業者

授業場

1 単元名 「大陸に学んだ国づくり」

2 単元の目標

聖徳太子の業績や大仏造営の様子等を手掛かりに当時の日本の国づくりの様子について関心を持って調べ、大陸から文化や技術等を学びながら天皇中心の国づくりが行われたことや、日本風の文化が築かれていったことについて理解し、適切に表現することができる。

3 単元について

(1) 単元観

本単元は、遣唐使の取組や目的、持ち帰ったもの等から、当時の日本の国づくりと大陸の文化との関係について学習問題をつくり、追究・解決する活動を通して、天皇を中心とした政治が確立されたことや、日本風の文化が生まれたことを理解する。また本単元は、聖徳太子の業績や大化の改新、大仏造営の様子、貴族の生活や文化の様子について資料をもとに具体的に調べていくことで、大陸の文化や技術等を学びながら国の政治のしくみが成り立っていく様子や、当時の人々の考えについて理解を深める。このような学習過程を通して、当時の日本の国づくりと大陸の文化との関係について、自分なりの考えを適切に表現することがねらいとなっている。

(2) 目指す児童像

本単元では、当時の日本の国づくりに関わる歴史的な事象を、様々な立場から空間的、時間的、関係的な見方で捉え、比較、関連付け、総合して考えることで理解を深め、大陸の文化との関係について、自分なりの考えを広い視野から表現することができる子供の姿を目指していく。

(3) 指導観

上記の2点を踏まえ、本単元では、各歴史的な事象の特色や意味を追究する過程において、必要な資料を提示するとともに、新たな視点を引き出す教師の働きかけによってそれらを多角的に捉えることができるようにする。その上で、他者との対話を適宜設定し交流することで、自分の考えを構成する根拠をより明確にしていくことができるよう学習過程をデザインしていく。単元の終末には、「歴史新聞」づくりを設定し、これまでの追究の過程を踏まえた自分の考えや、課題追究の視点や方法等の学び方についての振り返りを表現する活動を通して、社会認識を深めようとする態度を引き出していく。以下に、研究に関わる具体的な手立てを述べていく。

本単元における「見方・考え方」と「対話的な学び」との関係性

答申では、社会科における「見方・考え方」について、次のように述べられている。

社会的な事象を、①位置や空間的な広がり ②時期や時間の経過 ③事象や人々の相互関係等に注目して捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること。

本单元における「見方・考え方」として、

①位置や空間的な広がり

- ・日本と中国を中心としたアジア諸国の位置関係や広さのちがいを。
- ・「木簡」は、どこからどこへ届けられていたか。
- ・国分寺はどのように日本全国に建てられていったのか。
- ・大仏づくりに、どんな人が協力したのか。

②時期や時間の経過

- ・聖徳太子が目指した社会のしくみが古墳時代と比べてどこが変わったのか。
- ・都と地方の人々の暮らしの様子はどのように変わっていくのだろうか。
- ・国の政治のしくみはどのように変わっていくのだろうか。

③事象や人々の相互関係

- ・聖徳太子の考え方は、誰によってどのように引き継がれていったのか。
- ・負担を強いられた農民の願いや思いはどうだったか。
- ・大仏造営に携わった人々の願い・思いはどうだったか。

等が挙げられる。

資料提示の工夫から児童の新たな視点を引き出す教師の働きかけ～I

上記のような「見方・考え方」を拡充したり、鍛えたりすることができるように、資料提示の工夫から、次のように教師が働きかけを行い、既存の社会的事象に対する認識を揺さぶっていく。

(具体例)

<限定を意識した資料提示の工夫>

- ・遣唐使の様子についての資料を提示し、当時の日本の国づくりと大陸文化との関係に着目させる。

<類比を意識した資料提示の工夫>

- ・『万葉集』の貧窮問答歌を資料として提示し、当時の庶民の生活の様子をより具体的に想像し、都の人々との生活の様子の違いに着目させる。

<批判を意識した資料提示の工夫>

- ・大仏造営の具体的な様子について資料を提示し、大仏造営かかった費用や時間、労力などから、その必要性について多角的に考えさせる。

<位置や空間的な広がりを問う働きかけ>

- ・なぜここに集まっているのだろうか。
- ・そこでの生活は、まわりの自然環境からどのような影響を受けているだろう。

<時期や時間の経過を問う働きかけ>

- ・なぜ変わらずに続いているのだろうか。
- ・前の時代とどのように変わったか。

<事象や人々の相互関係を問う働きかけ>

- ・どのような工夫や努力があるのだろうか。
- ・よりよい決定の仕方とはどのようなものか。 等

聖徳太子の業績や大化の改新、大仏造営の様子、貴族の生活や文化の様子について、位置・空間的、時期や時間的、事象や人々の相互関係を捉えることで、歴史的事象の意味やつながりを多角的に考察し、「他者との対話」をもとに、当時の日本づくりと大陸の文化の関係について、自分なりの考えを構成する根拠を明確にしていこうとする子供の姿が期待される。

4 評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・表現・判断	観察・資料活用の技能	社会的事象についての 知識・理解
ア我が国の歴史上の主な事象にかかわる人物の働きや代表的な文化遺産に関心をもち、意欲的に調べ、考えながら追究している。 イ自分たちの生活の歴史的背景、我が国の歴史や先人の働きについて理解と関心を深め、我が国の歴史や伝統を大切にし国を愛する心情をもとうとする。	ア我が国の歴史上の主な事象にかかわる人物の働きや代表的な文化遺産について問題意識をもち、学習の見通しをもって、追究・解決している。 イ調べたことをもとに、我が国の歴史上の主な事象にかかわる人物の働きや代表的な文化遺産が我が国の国家・社会の発展に果たした役割を考え、適切に判断している。	ア我が国の主な歴史的事象について、年表や文章資料等の各種の基礎的資料を活用し、人物の働きや代表的な文化遺産を中心に調べている。 イ調べた過程や結果を目的に応じた方法で分かりやすく表現している。	ア天皇を中心とした政治が確立されたことを理解している。 イ日本風の文化が起こったことを理解している。

5 学びの過程のデザイン

下支えする主体的な学び	学 習 活 動	手 立 て
<p>遣唐使の取組に関する資料を提示し、当時の航海の大変さや持ち帰ったもの等から、大陸の文化と日本の国づくりに関わりがあることに気付くようにする。</p> <p>大陸の文化と日本の国づくりの関わりについて、予想したり、具体的な取組について調べたりする活動を通して、問題解決に向けて追究しようとする姿を引き出していく。</p>	<p>1 時間目</p> <p>遣唐使について調べ、日本が長期間にわたって使節を送った理由を考え、当時の国づくりと大陸の文化の関わりについて学習問題をつくり、調べの計画を立てる。</p> <p>関ア 思ア</p>	<p>遣唐使の様子についての資料を提示し、当時の日本の国づくりと大陸文化との関係に着目させ、学習問題をつくり、その解決に向けて追究しようとする姿を引き出していく。</p> <p>I</p>
<p>1. 国づくりは大変だ!? 当時の国づくりに関わった人や取組の様子を探ろう。</p> <p>学び方や考えの変容について振り返ったり、新たな疑問や追究したい事柄を整理したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天皇中心に国づくりが進められた。 ・能力に応じて役人を取り立てるのは、今の社会のしくみに似ている。 ・仏教の力は、どのようにいかされていったのだろう。 ・国民の生活の様子はどのように変わっていったのだろう。 	<p>2 時間目</p> <p>聖徳太子の行った取組について調べ、どのような国づくりをめざしたのかや、その後の政治にどのような影響をあたえたのかを考える。</p> <p>技ア</p>	<p>古墳時代の社会のしくみ等、既習事項を想起させる資料を提示し、共通点や相違点を見いだす発問や問い返しを行うことで、これまでの国の成り立ちとの違いに気付くようにする。</p> <p>I</p>
<p>2. 国民の幸せを保て!! 当時の国民の生活の様子を具体的に調べ、都と地方の関係性から、国づくりの様子を探ろう。</p>	<p>3 時間目</p> <p>木簡を手掛かりに、都と地方の人々の暮らしの様子を詳しく調べ、その関係性を明確にすることで、どのような国づくりが進められたのかを考える。</p> <p>知イ</p>	<p>『万葉集』の貧窮問答歌や防人の歌等を紹介し、当時の国への納入・奉仕に苦しむ農民の様子を捉えるとともに、なぜこの歌が今なお語り継がれているのかや、『万葉集』の存在の意味について問うことで、編集者の願いや思いに気付き、様々な立場から、当時の人々の生活の様子を追究しようとする姿を引き出す。</p> <p>I</p>
<p>学び方や考えの変容について振り返ったり、新たな疑問や追究したい事柄を整理したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地方から運ばれた生産物が都の人々の生活を支えていた。 ・地方の人々はこの苦しみをどのように耐えてきたのだろう。 	<p>4 時間目</p> <p>大仏づくりについて調べ、大仏が作られた意味や、国分寺の広がりから、天皇中心の政治のしくみが整えられていったことを捉える。</p> <p>技ア</p>	<p>『万葉集』の貧窮問答歌や防人の歌等を紹介し、当時の国への納入・奉仕に苦しむ農民の様子を捉えるとともに、なぜこの歌が今なお語り継がれているのかや、『万葉集』の存在の意味について問うことで、編集者の願いや思いに気付き、様々な立場から、当時の人々の生活の様子を追究しようとする姿を引き出す。</p> <p>I</p>
<p>3. 仏教で国づくり!? 大仏づくりの様子や、その背景について調べ、仏教の教えと国づくりの関係を探ろう。</p>	<p>5 時間目 (本時)</p> <p>大仏をつくった意味について、資料をもとに根拠を明確にしながら意見を交流する活動を通して、聖武天皇の国づくりに対する思いや当時の人々の生活の様子を明らかにすることができるようにする。</p> <p>思</p>	<p>大仏の造営に込めた天皇や国民の願いや思いと、仏教の教えとの関係をまとめたところで、大仏造営にかかった費用や時間、労力について、資料をもとにその必要性について改めて問うことで、当時の様々な人々の立場から、自分なりの考えを選択・判断する姿を引き出す。</p> <p>I</p>
<p>学び方や考えの変容について振り返ったり、新たな疑問や追究したい事柄を整理したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仏教の教えを守ることが人々の不安を救うことにつながっていた。 ・様々な人々の思いや願いがあって、大仏づくりが行われた。 ・他に国づくりを支えた人・もの・ことはなんだろう。 	<p>6 時間目</p> <p>鑑真が来日した経緯や正倉院の宝物等を調べ、日本の国づくりに大陸の文化が与えた影響について考える。</p> <p>思イ 知ア</p>	<p>大仏の造営に込めた天皇や国民の願いや思いと、仏教の教えとの関係をまとめたところで、大仏造営にかかった費用や時間、労力について、資料をもとにその必要性について改めて問うことで、当時の様々な人々の立場から、自分なりの考えを選択・判断する姿を引き出す。</p> <p>I</p>
<p>4. 持ってきたものはそれだけ!? 鑑真の来日の様子や取組、正倉院の宝物等から、この頃の日本と大陸文化の関係を探ろう。</p>	<p>7 時間目</p> <p>貴族の生活の様子について調べ、大和絵やかな文字の成立等を手掛かりに、新しい日本風の文化が作られていったことを捉える。</p> <p>思イ 知イ</p>	<p>大仏の造営に込めた天皇や国民の願いや思いと、仏教の教えとの関係をまとめたところで、大仏造営にかかった費用や時間、労力について、資料をもとにその必要性について改めて問うことで、当時の様々な人々の立場から、自分なりの考えを選択・判断する姿を引き出す。</p> <p>I</p>
<p>学び方や考えの変容について振り返ったり、新たな疑問や追究したい事柄を整理したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仏教を広めるために活躍した人がたくさんいた。 ・中国だけでなく、大陸全体の文化の影響を受けていた。 ・今につながるものもあった。 	<p>8 時間目</p> <p>当時の日本の国づくりと大陸の文化との関係について、自分なりの考えも入れながら、歴史新聞にまとめる。</p> <p>技イ</p>	<p>当時の国づくりに大陸の文化が大きく影響していたことをまとめた上で、年表・資料とともに遣唐使を廃止した理由について問うことで、その後の日本の文化がどのように作られていったのかについて、関心を持って追究しようとする姿を引き出していく。</p> <p>I</p>
<p>5. それから日本はどうなった!? 貴族の暮らしの様子から、大陸の文化の影響を受け、どのような文化が作られていったかを探ろう。</p>		
<p>学び方や考えの変容について振り返ったり、新たな疑問や追究したい事柄を整理したりする。</p>		

当時の日本の国づくりと大陸の文化の関わりを探れ!

6 本時について（5／8時間目）

（1） 本時の目標

大仏をつくった意味について、資料をもとに根拠を明確にしなが意見进行交流する活動を通して、聖武天皇の国づくりに対する思いや当時の人々の生活の様子を明らかにすることができるようにする。

（2） 本時における研究の視点

本時においては、主に研究の手立て**I**を講じていくことになる。

I 前時までの追究の過程から、大仏の造営に携わった人々を中心に、その様子について資料を用いて読み解いていく活動を通して、当時の日本の国づくりと仏教の教えには、密接な関係があったことを確認する。その上で、大仏の造営にかかった費用や時間、労働力等について詳しく知ることができる資料を提示し、立場の違いや自分の生活との比較、願いや思いを問うことで、新たな視点を引き出す資料との対話を促していく。さらにここで、「大仏造営は本当に必要だったのか？」と再び問うことで、様々な立場から、大仏造営の意味を見だし、当時の人々の様子をより広い視野から捉え、根拠を明確にした上で自分の考えを再構成し、「他者との対話」へとつなげていきたい。

（3） 本時の展開

学 習 活 動	主な働きかけ・手立て	【評価】個に応じた指導 (▲)
1. 前時までの活動を振り返り、本時の課題を確認して、学習の見直しを持つ。 ・聖武天皇は仏教の力を借りて国をまもろうとした。 ・大仏づくりには国中の人が協力した。 ・行基の功績で、仏教がより広がった。	・前時までの追究の過程から、大仏造営の意味や、国の政治のしくみづくりとの関係をもとにしながら、本時ではさらに他の事例から、課題追究する活動を通して考えることができるようにする。	
大仏づくりの様子から、当時の日本の国づくりと仏教の関係を探ろう！		
2. 「大仏づくりは本当に必要だったか」について、大仏造営の意味を、資料をもとに根拠を明確にしなが、自分の考えをまとめる。 ・聖武天皇は、仏教の力で国をまもろうとした。 ・大仏ができることに生きる希望をもらった。 ・行基の考えに賛同して、喜んで協力した。 ・天皇の呼びかけによって、国が一つにまとまっていった。 3. それぞれの立場や根拠となる資料を明確にしなが、班、全体で交流する。 4. 大仏造営にかかった費用や時間、労働力を示す資料を読み、既習事項と比較して気付いたことや疑問について話し合う。 ・思ったより、時間がかかっている。 ・その間も苦しい生活が続いていたのでは？ ・今ならもっと早くできるのに。 ・今の費用にしたら、すごく高い。 5. 大仏造営に関わる様々な立場のちがいや苦労や大変さ知り、再度大仏造営の必要性について、広い視野から課題を追究し自分の考えを再構成しようとする。 ・国を救うことよりも、天皇が自分の力を示したいという思いが強かったように思う。 ・大仏づくりに命をかけて、取り組んだ人も多くいたはず。 ・国民の半数が協力したということは、それだけ、仏教の教えがすばらしかったのでは。 ・それでも、もっと他に力を使うべきだった。 6. それぞれの立場や根拠となる資料を明確にしなが、全体で交流する。 7. 本時を振り返り、次時の見直しを持つ。	○立場やもととなった資料を整理しながら、児童の考えを確認する。 ○整理した事実を基に、願いや思いに思考を焦点化したり、違う立場を問う、発問を行う。 「どんな思いがあったのだろう」「他の人はどう思っていたのだろう」等 ○立場やつながりに注目させ、国民の多くが大仏造営に協力したことについて整理する。 ○必要に応じて、補足資料を提示しながら、児童の疑問を解決、整理していく。 ○大仏の大きさを体験的に捉えることができるよう、原寸大の大仏の目がわかる資料や、年表をもとにかかった時間や当時の材料費や労働力を、現在の金額に換算したもの等の資料を提示する。 ↓ ○空間的、時間的、関係的な見方で資料を読み取らせる働きかけを行うことで、資料との対話を深め、自分の考えを広い視野から再構成させる。 I □振り返りとして、なぜそのような考えにいたったのかや、どう考えていけば良いか等自分の考えの妥当性を、交流を通して見いだすことで、他者との対話を生かしてより広い視野から選択・判断ができる姿を引き出していく。 B	【思い～ワークシートの記述、観察・発言】 【思い～ノートの記述、観察・発言】